

# 第38回建設業経理事務士検定試験

## 3級試験問題

### 注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。  
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 栃木工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 本社建物の補修を行い、その代金¥1,800,000を小切手を振り出して支払った。このうち¥400,000は修繕のための支出であり、残額は改良のための支出である。
- (2) 倉庫に搬入した材料の代金のうち、¥1,200,000については手持ちの約束手形を裏書譲渡し、残額¥300,000は翌月払いとした。
- (3) 現場へ搬入した建材の一部（代金は未払い）に不良品があったため、¥55,000分の返品をした。
- (4) 先月購入した建設用機械の未払代金¥3,000,000及び本社倉庫に保管している材料の未払代金¥300,000を共に小切手を振り出して支払った。
- (5) 決算に際して、当期純利益¥530,000を資本金勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 受取手形	D 建物	E 材料
F 機械装置	G 未成工事受入金	H 工事未払金	J 未払金	K 支払手形
L 前渡金	M 資本金	N 材料費	Q 外注費	R 修繕維持費
S 減価償却費	T 完成工事高	U 損益		

〔第2問〕 下記の原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。（12点）

原価計算表

平成×年3月

（単位：円）

摘 要	101号工事		102号工事		103号工事	104号工事	合 計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材 料 費	210,000	× × ×	66,000	98,000	153,000	101,000	786,000
労 務 費	× × ×	105,000	54,000	× × ×	108,000	× × ×	× × ×
外 注 費	115,000	× × ×	52,000	55,000	× × ×	79,000	427,000
経 費	95,000	67,000	× × ×	36,000	35,000	× × ×	315,000
合 計	560,000	406,000	× × ×	× × ×	× × ×	326,000	× × ×
期末の状況	完 成		未 完 成		完 成	未 完 成	

未成工事支出金

前 期 繰 越	756,000	完成工事原価	× × ×
材 料 費	× × ×	次 期 繰 越	× × ×
労 務 費	381,000		
外 注 費	× × ×		
経 費	× × ×		
	× × ×		× × ×

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年7月31日現在）を完成しなさい。  
 なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合計試算表

平成×年7月20日現在

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
1,958,000	現金	925,000
2,880,000	当座預金	1,623,000
1,986,000	受取手形	1,220,000
1,268,000	完成工事未収入金	841,000
1,152,000	材料	754,000
1,550,000	機械装置	
780,000	備品	
1,050,000	支払手形	1,988,000
889,000	工事未払金	1,866,000
987,000	借入金	2,947,000
824,000	未成工事受入金	1,548,000
	資本金	3,000,000
	完成工事高	4,238,000
1,525,000	材料費	
1,326,000	労務費	
1,152,000	外注費	
653,000	経費	
756,000	給料	
182,000	支払家賃	
32,000	支払利息	
20,950,000		20,950,000

<資料2> 平成×年7月21日から7月31日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金として¥150,000が当座預金に振り込まれた。  
 ♪ 工事の未収代金¥360,000を小切手で受け取った。
- 23日 取立依頼中の約束手形¥400,000が支払期日につき、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。  
 ♪ 材料¥205,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。
- 24日 本社事務所の家賃¥95,000を小切手を振り出して支払った。  
 ♪ 下請業者から外注作業完了の報告があり、その代金¥268,000の請求を受けた。
- 25日 現場作業員の賃金¥280,000を現金で支払った。  
 ♪ 本社事務員の給料¥240,000を現金で支払った。
- 27日 材料¥147,000が本社倉庫より現場に搬入された。  
 ♪ 現場の電気代¥35,000を現金で支払った。
- 28日 工事が完成して発注者へ引き渡し、工事代金¥1,500,000のうち、前受金¥200,000を差し引いた残金を請求した。  
 ♪ 外注工事の未払代金の支払いのため、約束手形¥356,000を振り出した。
- 30日 当社振り出しの約束手形¥280,000が支払期日につき、当座預金から引き落とされた。
- 31日 銀行から¥800,000の借入を行い、その利息¥1,000が差し引かれたうえで、当座預金に入金となった。

〔第4問〕 次の文の  の中に入る最も適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～シ）を記入しなさい。（10点）

- (1) 固定資産の減価償却総額は、当該資産の  a から  b を差し引いて計算される。
- (2)  c は、工事毎に発生した原価を集計できるように工夫された帳簿であり、  d の補助元帳としての機能を果たしている。
- (3) 回収不能となった売上債権は簿記上、  e 勘定で処理をする。

〈用語群〉

ア 取得原価	イ 時価	ウ 完成工事高	エ 残存価額
オ 完成工事原価	カ 工事原価	キ 材料元帳	ク 未成工事支出金
コ 工事台帳	サ 貸倒損失	シ 減価償却費	

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている熊本工務店の当会計年度（平成×年1月1日～平成×年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。（28点）

〈決算整理事項等〉

- (1) 減価償却費を次のとおり計上する。 機械装置（工事現場用）¥120,000  
備品（一般管理部門用）¥ 30,000
- (2) 有価証券の時価は¥285,000であり、評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する（差額補充法）。
- (4) 貸付金に対する利息の未収分は¥4,000である。
- (5) 借入金に対する利息の未払分は¥3,500である。
- (6) 未成工事支出金の次期繰越額は¥198,000である。